

開催報告：第50回土木学会年次学術講演会

鹿島建設(株) 技術研究所 吉田 輝

1. はじめに

第50回土木学会年次学術講演会が、平成7年9月19日（火）～21日（木）の3日間、好天のもと、松山市の愛媛大学城北キャンパスにおいて開催され、総数3,954件の発表と熱心な質疑応答が行われた。本稿では、ジオシンセティックスおよびそれに関連した発表に関する動向を簡単に紹介する。



会場の愛媛大学城北キャンパス

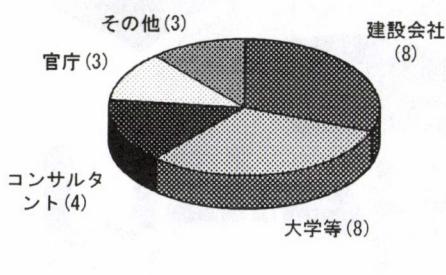


発表風景

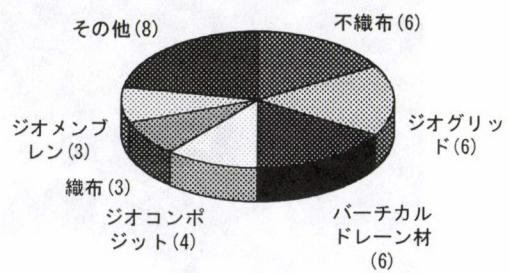
2. ジオシンセティックス関連発表とその動向

ジオシンセティックスおよびその関連では、第Ⅲ部門の「補強土」、「地盤改良」のセッションを中心に、26件（筆者の判断）の発表があった。これらの発表を、①登壇者の所属機関、②ジオシンセティックスの種類、③ジオシンセティックスの用途、④研究手法の4項目について分類したものが下図である。ただし、②および④については、1件の発表で複数の内容を含むものは、それぞれに計上した。

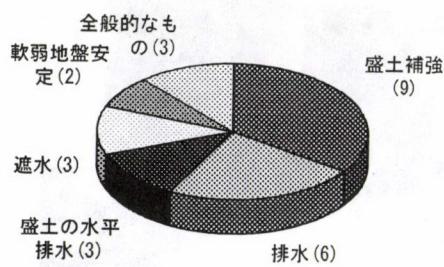
- ①機関：建設会社、大学の両者のみで過半数を占めており、メーカーは入っていない。
- ②種類：不織布、ジオグリッドが多数を占めているのは、昨年と同様である。
- ③用途：各発表とも、最も力点が置かれていると考えられる項目を1つ選んで分類した。「遮水」の3件は、②のジオメンブレンに対応する。昨年と同様、盛土関連が多い。
- ④手法：「模型実験」には、本格的な盛土模型を用いたものから、ごく簡単なモデルを用いたものまで含めた。



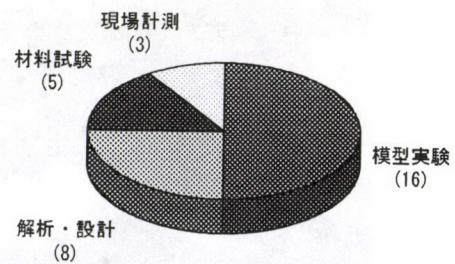
①機関別内訳



②種類別内訳



③用途別内訳



④手法別内訳